

7月例会「僕たちは希望という名の列車に乗った」7月13日(木)

1956年ハンガリーの民衆蜂起を知った旧東ドイツの高校生たちの苦悩と決断を描く青春ドラマ

感染症の流行は、一進一退ですが、映画を楽しむ平凡な日常に近づいてきていると感じます。新しい会員が増えるよう、映画好きの知り合いに、この会のことを伝え入会を勧めるなど、会の運営に協力をお願いします。また、例会では、熱中症と新型コロナウイルスに気を付けましょう。入館時の手指の消毒、マスク着用 そして水分補給もお忘れなく。

例会のお知らせ

■名称／第124回例会

「僕たちは希望という名の列車に乗った」

■日時／2023年7月13日(木)

①PM2:00～、②PM4:20～、③PM6:40～

■場所／加古川総合文化センター大会議室

(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北東へ600m)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。入会手続きしていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

■タイトル／僕たちは希望という名の列車に乗った



■監督／

ラース・クラウメ

■出演／レオナルド・

シャイヒャー、トム・グラメンツ、ヨナス・ダスラー、ロナルト・ツェアフェルト、ブルクハルト・クラウスナー、レナ・クレンケ、イシャイア・ミヒャルスキ

■データ／2018年、ドイツ、111分

■ジャンル／ヒューマンドラマ、伝記

■ストーリー／ベルリンの壁建設前夜の東ドイツ。1956年、高校に通うテオとクルトは、西ベルリンの映画館で

ハンガリーの民衆蜂起を伝えるニュース映像を見る。自由を求めるハンガリー市民に共感した2人は純粋な哀悼の心から、クラスメイトに呼びかけて2分間の黙祷をするが、ソ連の影響下に置かれた東ドイツでは社会主義国家への反逆とみなされてしまう。

人民教育相から1週間以内に首謀者を明らかにするよう宣告された生徒たちは、仲間を密告してエリートとしての道を歩むのか、信念を貫いて大学進学を諦めるのか、人生を左右する重大な選択を迫られる。

「あいち平和映画2023」参加報告

6月17・18日に、あいち平和映画祭2023(全国映連第50回映画の仲間・全国学習交流会)に参加しました(兵庫県は神戸映サ1人、加古川シネマ1人)! コロナ渦で三年ぶりの開催となりました。第1日目は午前中に神山征二郎監督作『千羽づる』(1989年)上映、午後には神山監督の講演会と谷津賢二監督『荒野に希望の灯をともす』(2022年)の上映がありました。会場は閑静な住宅街にある文化小劇場ホールで、ほぼ満席で来場者は200名余りでした。上映後には自然と拍手があり、胸が温かくなりました。『千羽づる』は初めて観たのですが、本当に感動しました。実話をもとにしていますが、出演者は倍賞千恵子(母役)、前田吟(父役)、田村高廣(医者役)、篠田三郎(医者役)、石野真子(看護婦役)の若いこと! もちろん、主人公の偵子役の広瀬珠美さんも素晴らしい表現力でした。神山監督はオーディションでもなかなか偵子役が決まらなく、困っていた所に事務所に広瀬さんが面接に来た時は、一目でこの子だ! と思ったそうです。ストーリーは広島での原爆投下による白血病で13歳で亡くなるまでの少女偵子を描いています。脚本もよかったし、子供たちの生き活きとした学校生活、生活風景はノスタルジーを感じさせる良いシーンがいくつもありました。銃弾に倒れた故中村哲さんのドキュメンタリー

映画『荒野に希望の灯をともす』は有名ですが、改めて中村哲さんの優しさ、行動力、支援された方々の努力に頭が下がりました。ともに平和映画祭にふさわしい上映作品でした。第2日目は名古屋城近くにある愛知県女性総合センターに場所を移し、愛知県在住の在日朝鮮人蔡一恵さんの

講演と全国映連、4つのサークル活動報告で幕を閉じました。北朝鮮籍の蔡さんの父母をふるさと(韓国)に連れていくまでの様々な困難(パスポート取得)を乗り越え、生まれて初めて降り立った朝鮮半島のエピソードは特に胸が熱くなりました。講演終了後に蔡さんとおしゃべりしすぎて、休み時間終了。帰りに著作本を購入しようと思っていたら、もう撤収されていました(トホホ)。

今回、本当に久しぶりに全国映連のサークルの方々と再会し感慨深かったです。9月には東京で第50回と節目の映画大学が開催されます！素敵な講師陣で今から楽しみにしています！みなさま、いざ東京へ！(せん)

私の映画KAN「荒野に希望の灯をともす」

中村哲さんのドキュメンタリー映画「荒野に希望の灯をともす」を見た。パキスタンで医療活動をされていた人だということは知っていたが、ペシャワール会という名前は初めて知った。「現地の人々が欲しいのは武器ではない、食料や水である」病気の足や栄養失調があるからで、砂漠化した農地を回復するために「緑の大地計画」を実行した。壮大な計画でびっくり、また、それを実行し、成し遂げたことにびっくり。「百の診療所より一本の用水路を」戦闘機が飛び交う中での大工事。ただ単にテレビのニュースで知るだけではわからないことであった。「自給自足の農村復興」をスローガンに、水利事業にかかわった農民や職員が自活しながらその経験を生かし、用水路の維持・管理を世代から世代へつなげていくという「自立定着村」を目指しています。将来的には自分たちで、という未来のビジョンを見据えた活動にただただ敬意を表します。

活動には、莫大なお金がかかります。それは、すべて寄付で賄われているというのです。日本にペシャワール会事務局があり、そこで活動を支えている人たちがいます。戦争なんて考えている暇もありません。

しかも、今、私たちがこの記録映画を見ることができるといえることは、この映像を撮り編集した人がいるということです。たくさんの人にこのDVDを見てもらって、「平和」について考えてほしいなと思いました。

「私たちが己の分限を知り、誠実である限り、天の恵みと人のまごころは信頼に足るといえることです。」(有馬)

前回の例会報告

5月17日(水)の5月例会では、フランスのプロバンス地方の美しい景色の中で自転車に乗れない自転車屋のおじさんが繰り広げるコメディ作品「今さら言えない小さな秘密」を鑑賞しました。

参加会員89名、ほか明石シネマクラブから9名。

明石シネマクラブ例会情報

■名称/第78回例会『君を想い、バスに乗る』

(2021年、イギリス、86分)

■監督/ギリーズ・マッキノン

■出演者/ティモシー・スポール、フィリス・ローガン

■ジャンル/ヒューマン、ロードムービー

■解説/妻を亡くした90歳

の男性が、路線バスのフリーパスを利用してイギリス縦断の旅に出る。道中さまざまな出会いやトラブルを経験しながら、妻との思い出の地を目指す主人公の姿が描かれる。高齢男性を主人公にしたロードムービー。



■日時/8月25日(金)①PM2:00-、②PM4:30-、③PM7:00-

■場所/アスピア明石9階子午線ホール(JR明石駅東徒歩5分)

■目的・内容/加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付/会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662 (金沢まで)

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 079-425-4499 ※

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://kakogawacinemaclub.c.ooco.jp/>

※ファクシミリの番号が変わっています。

会員数 116 人(5月17日現在)